

小さな幸せあふれる、のどかな15の町へ旅にしよう



# OZ magazine

百貨店バイヤーと行く

銀座三越特別コラボ

## 京都旅

「GINZA キョウト展」  
プレゼント情報

自然・アート・工芸・カフェを巡る、

# やすらぐ旅

長野／大町・松本  
栃木／那須・黒磯  
兵庫／丹波篠山  
岡山／津山  
沖縄  
小笠原諸島  
長崎  
南紀白浜  
湯河原  
沼津



10  
／  
11

No.627 2024  
OCT/NOV  
990yen

2 参加アーティスト

日本画家 森夕香さん

地域の歴史や自然をあわせて  
芸術祭で学び、楽しもう

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」参加アーティストの森夕香さんは、1999年滋賀県出身。斬新な日本画で注目されているアーティスト。そのアトリエを訪ねると、色とりどりのカラフルな瓶が並ぶ。これらはすべて日本画用の絵具、鉱物などを原料にした岩絵具だそう。

「日本画で使う岩絵具は、それだけを水に溶いても紙に定着しないので、水に溶かしたゼラチン質の膠（にか）と指で練り合わせて、作っていきます。岩絵具は混色が難しいので、私のアトリエには



森夕香/1991年生まれ 滋賀県出身。みずからの体験や感覚をもとに、日本画材を用いた絵画で注目を集めている

絵具の入った瓶がたくさんあります」と森さん。現在は「森の芸術祭」に向けた新作を制作している。「普段は人と人がひとりにもふたりにも見える、環境の中に溶け込んでいるようなあまい絵画作品を作っています。『森の芸術祭』では先日訪れた会場の印象と組み合わせる新作を発表する予定です」と話す。

森さんが作品を展示するのは津山市



にある「衆楽園」とい  
う、津山藩  
藩主が造園  
した大半を  
池が占める  
大名庭園。  
桜や睡蓮、  
紅葉に雪景

色など四季折々で表情を変える、国の名勝にも指定されている趣のある場所だ。庭園は森さんのアトリエがある京都にもたくさんあるけれど、「衆楽園」は印象が異なっていたという。

「京都の庭園は、その多くが周囲を高い垣根や塀で囲まれていて外からは見えません。門をくぐって、いきなり目の前に開ける印象。けれど、『衆楽園』には垣根や塀がなく、隣接する学校などとシームレス。子供たちが気軽に遊びに来ていたり、遠くからでも庭園の



竹まいが見えたりと、庭園と外の敷地との境界線があいまいなんです。そこが非常におもしろい空間だと思います」境界線のあいまいさを作品のテーマにしている森さんにはびつたり

のシチュエーションだ。

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」が開催される岡山県北部は学生時代に訪れたことがあります。みんなで車に乗り、蒜山などを回っていたのですが、特に印象に残ったのが、私の展示がある『衆楽園』にも近い『つやま自然のふしぎ館』という自然史博物館。多種多様な動物の実物はく製が展示されている施設。はく製の表情やポーズなどがユニークで、独特の雰囲気がある。非常に面白かったです。創設者自身が標本になって展示されているのも驚きでした。これも今回の芸術祭の展示会場になるので、ぜひ足を運んでみてください」と、津山エリアの見どころも教えてくださいました。



「自然の中で



鑑賞できる屋外展示も楽しんでもらいたいです。芸術祭って地域に根ざしているものなので、土地や施設の歴史や地理的特徴などをアート作品とともに体験し、直感的に学び取れることがいいですね。より深くその土地を好きになれる気がしますし、アート作品も楽しみつつ、地域のおいしいものを食べたり、観光をしたり、その土地そのものを味わえるものだと思います。先日『衆楽園』へ下見に行ったとき、ランチでおいしいものをたくさん食べすぎて、気になっていたソフトクリームを食べられなかったのが心残り。私も現地に再び行ける日を、楽しみにしています」